

【川崎小学校「復興教育」の基本的な考え方】

「いわての復興教育」の目標
 『 郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成 』
 ◆ 3つの教育的価値 【 生きる 】 【 かかわる 】 【 そなえる 】

【 生きる 】（生命の大切さ 心のあり方 心身の健康）

- ①【かけがえのない生命】
- ④【夢や希望の大切さ】

【育みたい心情や力】
 ・命の大切さ ・夢や希望 ・感謝
 ・自己肯定感 ・思いやり

- ・キャリア教育
- ・総合的な学習の時間（生き方，被災地学習）
- ・社会体験，見学
- ・性指導
- ・道徳（生命尊重）

紹介実践例
3ページ目
学習発表会で震災劇

【 かかわる 】（人の絆の大切さ 地域づくり 社会）

- ⑨【仲間や地域の人々とのつながり】
- ⑪【ボランティア】
- ⑬【地域づくり】

【育みたい心情や力】
 ・郷土愛（先人の知恵や苦労を学ぶ）
 ・思いやり ・協調心 ・コミュニケーション能力

- ・ボランティア教育
- ・総合的な学習の時間（自然，産業，歴史，伝統）
- ・あいさつ運動，寿松苑訪問
- ・ふれあい交流会，被災地学習
- ・道徳（郷土愛，愛校心）

紹介実践例
2ページ目
被災地での宿泊学習

【 そなえる 】（自然災害の理解 防災や安全）

- ⑰【自然災害の歴史】
- ⑳【身を守り、生き抜くための技能】

【育みたい心情や力】
 ・命の大切さ ・身を守る力
 ・防災・防犯意識 ・危機回避能力

- ・安全教育（レター作戦，救急救命学習）
- ・防災・防犯学習（避難訓練，防犯教室）
- ・総合的な学習の時間（被災地学習，水害）

紹介実践例
4ページ目
交通安全レター作戦

紹介実践例
2ページ目
被災地での宿泊学習

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】 3【そなえる】	⑨【仲間や地域の人々のつながり】⑩【身を守り、生き抜くための技能】被災地を直接訪れ、被災や復旧・復興の様子を見学したり、被災された方々と交流したりする中で、自分が身につけていかなければならないことを学ぶ。	学校行事 集団宿泊活動

【題材】被災地（大船渡・三陸方面）での宿泊学習（7月3日・4日）

【対象】第5学年 27名

【実施概要】

1 日目	2 日目
8:30 学校発(バス)	6:30 起床
10:30 盛駅着	7:00 朝の集い・朝食
11:00 盛駅発 震災列車	9:00 福祉の里センター発(バス)
11:34 吉浜駅着(バス)	9:30 末崎公民館着
12:30 越喜来漁協着 昼食	9:45 挨拶・交流活動等
13:30 芯取り作業体験等	11:30 昼食
15:30 越喜来漁協発(バス)	12:15 片付け
16:30 福祉の里センター着	12:45 感想発表・挨拶
18:15 夕食・入浴	13:00 末崎公民館発(バス)
21:00 就寝	14:30 学校着・解散

震災列車で車窓から復旧現場を確認。



わかめの芯取り作業を体験。そのままおみやげにいただきました。



学校からメダカ米を持参し、仮設住宅の方々と一緒に作ったおにぎりで昼食。サンマのすり身汁も最高でした。

◆児童の感想より

- ・電車の外は、最初は街が見えていましたが、だんだん何も無くなってきました。途中で「土地のかさ上げ工事」に使う土を、山から削っている所がありました。南リアス線は他よりも早く復興していることが分かりました。復興は、時間がかかるんだなあと思いました。
- ・家は家でも、仮設住宅の多さにびっくりしました。しかも野球のグラウンドの中に建てられていました。もっと広い所で練習したいだろうなあと思いました。また津波が来た時に備えて堤防づくりに取りかかっていました。どんな状況でもあきらめないということが分かりました。
- ・周りは、土と山と海とトラックなどの機械しか見えませんでした。今の科学は進歩しているけど、科学じゃ復興はできないのかなと思いました。
- ・お年寄りの肩をたたきながら自己紹介や話をしました。お年寄りとの共通点を見つけることができました。一緒に作ったおにぎりとしり身汁がとってもおいしかったです。お年寄りとは仲良く交流できてよかったです。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	④【夢や希望の大切さ】被災地を訪れ感じたことや学んだことを劇や歌で表現し、人とつながりながら夢や希望をもち、生きる価値を見いだすことがつらさを乗り越えられる源であることを学ぶ。	学校行事 学習発表会

【題材】学習発表会（10月18日）の劇「未来に向かって ～あの日を忘れない～」
 【対象】第5学年 27名



演じながら歌いながら被災地に想いを馳せた



【保護者の声】

- 自分達が通っていた学校も、そこにあった街並みも、住んでいた人々もみんな流されてしまったあの日。ガレキの山と化した無残な光景を今も忘れる事はありません。全てが色を失くし、音も無く、ひっそりと過ごしたあの時間。「今、自分にできること」を考えていた日々を、5年生の子どもたちは思い出させてくれました。自分たちが見て聞いて感じたことや考えたことを劇や歌にのせて届けようとする姿に、心が打たれました。涙が止まりませんでした。改めていろいろ考えさせられた気がします。感動をありがとうございました。
- 5年生は合唱も美しく、小さい子も身じろぎもせず、聴き入ったり見入ったりするほどでした。（小さい子には難しい内容なのに。）“つなみてんでんこ”は観衆も学ばせてもらったと思います。一人ひとりの本気が“本物”の発表となって皆魅了されました。

【児童の感想】

- ☆歌の歌詞から、震災によってたくさんの知り合いが亡くなり絶望してもおかしくない状況で、それでも生きよう、みんなの分まで生きようと言っているイメージがわいてきました。ぼくは、これはふざけながら歌ったり演技したりしてはだめなんだと思いました。そうじゃないとこの歌の歌詞のように必死に生きようとしている人に失礼だと思って、真剣に練習しました。
- ☆宿泊学習で、津波のこわさやたくさんの人が亡くなったこと、少しずつ復興が進んでいること、そしてそこでがんばっている人たちがいる事を知りました。だから、学習発表会を観にきてくださった皆さんに、津波のおそろしさがしっかり伝わればいいと思いました。
- ☆この劇を通していいと思ったのは、命の大切さや津波のこわさを知り、何もできないと思っていた小学生でも、家族を守れることが分かったことです。私たちのような小学生でも、家族のためにできることを考えながら生活していきたいです。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	②【身を守り、生き抜くための技能】震災津波の経験を踏まえ、地域を通るドライバーに安全運転を呼びかけることにより、交通安全に対する自らの意識を高め、通学路等に潜む危険を予測して回避する態度を育てる。	児童会活動

【題材】交通安全レター作戦（10月27日）

【対象】全学年 159名

【実践の概要】

学校のすぐ側を国道284号線が走るため、自ら身を守る意識を高め、またドライバーに安全運転を呼びかけて悲惨な交通事故をなくしていこうというねらいで始まった。長年の取組が認められ、今年度は千厩警察署長から表彰状をいただいた。



【実践の詳細】

■日時 10月27日（月）5校時終了後

■内容

執行部・児童会議長・4～6年の学級代表各1名 計13人が、道の駅かわさきに立ち、交通安全指導隊のお世話をいただきながら、ドライバーに手紙とキーホルダーを配布し、交通安全を呼びかける。

■事前準備

- ・1～4年生 交通安全を呼びかける手紙を書く（1人1通）95通
- ・5年生 キーホルダーをつくる。（1人1～2個）計40個
- ・6年生 キーホルダーをつくる。（1人1～2個）計55個



今年度のまとめ

1 成果

- 地域や被災地との接点を多く求めたことにより、児童が心情をより深く揺さぶられたことを感想等から知ることができた。
- 被災地の復興に携わっている方々を招いて直接生の声を伺ったり、被災地を訪れて現地の様子を見たり仮設住宅の方々と交流したりすることができた。震災を風化させない取組が展開でき、復興教育のねらいに迫ることができた。
- 町内唯一の小学校として、地域の人材や資源を活用したいという願いがあったことから、復興教育の理念は、新しい学校づくりを推進するにあたり大いに参考になった。

2 課題

- 次年度は様々な工夫を重ね、今年度の取組で築くことのできた多くの方々との絆を軸に、確かな実践をより深めたり広めたりしていきたい。
- 三つの教育的価値に基づいた実践は始まったばかりのものもある。今後、育みたい心情や力に照らし合わせ評価し、改善していきたい。